

令和6年度 第2回 十和田市病院事業経営審議会 議事録

- 日 時 : 令和7年2月21日(金) 15:30～16:38
- 場 所 : 十和田市立中央病院 別館2階講堂
- 出席者(委員) : 山端 博会長、中尾 利香委員、浅原 秀一委員、山本 由美委員、戸来 亮委員、上坂 広委員、古川 あき委員
- その他の出席者 : 丹野事業管理者、杉田院長、谷地森副院長、鈴木副院長、渡邊事務局長、坪看護局長、木村薬局長、寺山技師長、國分技師長、森技師長心得、石井副技師長、越田医事課長、東業務課長
- 次第 :
 1. 開会
 2. 会長挨拶
 3. 病院事業管理者あいさつ
 4. 案件
 - (1) 令和6年度病院事業会計決算見込みについて
 - (2) 令和7年度病院事業予算案について
 - (3) 十和田市立中央病院経営強化プランの改定について
 5. 閉会

案件	(1) 令和6年度病院事業会計決算見込みについて
山端会長	事務局より説明願います。
東業務課長	令和6年度病院会計決算見込みについて、事務局から説明したいと思います。それでは、着座にて失礼いたします。 お手持ちの会議資料の資料1をご覧ください。 まず最初に、収益的収支の状況についてご説明いたします。 6年度決算見込額のところを中心にご説明していきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 収入については、医療収益が7,438,559千円で、医業外収益が1,193,110千円の見込みとなっており、経常収益が、8,631,669千円という見込みです。 これは令和5年度の決算と比較して、48,071千円減少する見込みです。 令和6年度の支出についてです。医療費用が9,153,904千円、医業外費用は、575,991千円の見込みとなっており、経常費用は、9,729,895千円となる見込みとなっております。令和5年度の実績と比較して350,030千円増加する見込みとなっております。 収入につきましては、経常収益は、8,631,669千円、経常費用9,729,895千円、これを差し引きいたしまして、令和6年度は、最大で、1,098,226千円の経常損失。 また、病院トータルの収支状況を表す純損益は、最大1,066,839千円の赤字となる見込みです。令和5年度と比較して435,484千円の純損失の増という形になっているところでございます。 令和6年度の決算におきましては、令和5年度の決算と比較して、収入が金額にして48,071千円、率にして0.6%減少しております。支出については、令和5年度の決算と比較して金額にして353,030千円、率にして3.7%増加する見込みとなっております。 収入が減少した大きな要因としては、繰入対象経費の減による他会計負担金の減や新型コロナウイルス感染症入院患者病床確保事業補助金の廃止等による補助金の減により減少しているところでございます。 支出については、令和5年度と比較して350,030千円増加しております。主な要因といたしましては、人事院勧告をはじめとした人件費の増、患者数の増による薬品診療材料費の増、また老朽化による建物のボイラー用の煙突の修繕等々があり、費用全体として、令和5年度と比較して353,030千円の増となっております。 また、令和6年度が、赤字となる見込みから、累積欠損金についても、令和5年度末3,449,699千円から、令和6年度には4,516,538千円となる見込みであります。 なお、病院の経営状況を表す指針でもある資金不足比率は、令和5年度1.7%だったんですが、令和6年度は、19.3%まで上昇する見込みでありまして、この

	数値が、20%を超えると外部監査や経営改善計画を国や県に提出しなければならない等、かなり制約を受け、大変厳しい状況ございます。 次に裏面をご覧ください。資本的収支の状況について説明いたします。 令和6年度の収入については、934,093千円となる見込みです。支出については、1,329,347千円となる見込みですので、差し引きは、395,254千円となる見込みです。その不足分については、損益勘定留保資金により補填される見込みになっております。 以上で説明を終わります。
山端会長	ただいま報告がありました内容につきまして、ご質問、ご意見ございましたらご発言をお願いします。 はい。中尾委員。
中尾委員	はい、中尾と申します。よろしく願いいたします。十和田市にとっては急性期機能の病院とか在宅医療提供の病院でとても大事な役割を果たしていただいて、本当に感謝しております。それでちょっとお聞きしたいんですけど、ちょっとこの流動負債の一時借入金1,960,000千円っていうのがあるんですけど、その中身って分かりますでしょうか？ ちょっと5年度よりも6年度だいぶ大きくなってるもんですから、それが分かればと思ってましたけど。
東業務課長	こちらは、一時借入金の残額が増額となる6年度の見込みが、出ております。
中尾委員	どうして増えたのかお聞きしたいんですが。
東業務課長	収益の減がかなり効いておりまして、あと費用の増もございます。職員の給与などを支払うためにですね。一時的に借り入れするもので、またすぐ収入が入ったら返す金額が、増額してる状況になっています。
中尾委員	では、一時借り入れてすぐ返すっていうことですね。はい、ありがとうございます。
山端会長	はい。その他ございますか？ はい。山本委員
山本委員	先ほどの説明で、患者数が増えて診療単価も上がっているのですが、その面では、収益が上がってるんですけども、この医業外収益の他会計負担金、この▲160,756千円が、マイナスの原因の1つになってるんですけども、この繰入対象経費の減、救急医療に伴う繰入金の減について、具体的にちょっと私、イメージがわからない

	ので教えていただけますか？
東業務課長	ただいま質問にお答えします。繰入金の対象経費については、市からの救急医療に対する経費ということで、頂いているところでございます。当年度と前年度は、医師の働き方改革等によって、あの人件費の見直しがございます。前年度と今年度でトータルで見て、もらっているような状況で、前年度は、かなり多くいただいてたんですけども、6年度については、額が少なくなって繰り出していただいているような状況になっております。
山本委員	それは一般会計の方から。
東業務課長	そうですね。市の方から。
山本委員	救急医療っていう。
東業務課長	救急医療っていうのは、先生方や、看護師さんの当直だったり、そういうところの費用のところが、大きいところでございます。
山本委員	そういうところが、6年の方は、加味されなかったってことなんですか？
東業務課長	2年間通じてですね。トータルでこう見て、必要な部分を繰入いただいているところでございまして、その分については、過不足なくいただいているところでございます。
山本委員	毎年上がったり下がったりするみたいな。
東業務課長	そうですね。救急の人件費、その他等の費用を繰り出しいただいているところでございます。
山本委員	分かりました。ありがとうございます。
山端会長	はい。その他ございますか？ はい、戸来委員お願いします。
戸来委員	支出なのですけども、薬品費が確かにかなり増えてるなっていう気がしておりました。経費のうち委託料が、27,500 千円ほど増えてるっていうのは、これは先ほどお話しした常勤医師がいないっていうのと、何か関係があるような数字になるんでしょうか？

東業務課長	委託料は、委託業務、例えばのシステムの保守だったり。人件費が、主に増となった要因となっておりまして、常勤医師の不足が委託費の増ということではないです。
戸来委員	はい、ありがとうございます。
山端会長	はい。その他ございますか？ はい、上坂委員お願いします。
上坂委員	資料１のところの不良債務のうちリース債務とありますが、昨年度については13,135千円という数字なんですが、令和６年度543,721千円ということですが、これは６年度のうちに設備の入れ替え等があつて増になったという形ですかね。
東業務課長	令和５年中増えたようなところではございますけども、ちょっとそこは、すみません、詳細については用意してませんでしたので、後でまた回答させていただきます。以上です。
上坂委員	お願いします。
山端会長	はい。その他ございますか？ 私から１点、最後説明ありました資金不足比率20%を超えると、今後いろいろあるということでしたけども、超えた際、どういうことが考えられるか、あのちょっと分かりやすく説明していただけると助かります。お願いします。
東業務課長	ただいまの質問にお答えします。資金不足比率、経営の健全化の基準があるんですけど、こちらは、20%が基準となっておりまして、超えた場合は、外部監査を踏まえた経営改善化計画を国や県に報告して、毎年度その実施状況を議会等に報告、公表しなければならないとなっているところでございます。以上です。
山端会長	ありがとうございます。 しばらく、我々も議会としてこの20%付近というのは、なかなか目にしてなかったんですけども。過去でいうと、このぐらいの数値になった時っていうのはあったのでしょうか？
東業務課長	過去に、もうだいぶ前になりますけども一度24%【訂正27.8%】くらいになったことございまして、その時には、病院で独自に改善するような方向で、外部の方を入れて、協議して改善をやっているところでございます。こちらは、健全化計画を策定する前の段階で、改善の取組をした形になっております。以上です。 はい、ありがとうございます。

山端会長	無ければ終了して次の案件に移りたいと思います。
案件	(2) 令和7年度病院事業予算案について
山端会長	事務局より説明願います。
東業務課長	令和7年度病院事業会計予算案についてご説明いたします。資料2をご覧ください。 まず、収益的収支の総額についてご説明いたします。 令和7年度の予算については、令和6年度と同様、厳しい経営状況が続いておりまして、収益的収入については、9,717,700 千円。収益的支出については、10,274,075 千円、差し引きの収支といたしましては、▲556,375 千円の赤字予算を計上する見込みとなっております。 その収益的収支の主な増減の理由といたしましては、収益的収支の主な増減理由というところをご覧くださいと思います。 医業収益である入院収益については、令和7年度 5,836,788 千円、令和6年度と比較して 32,193 千円の増、外来収益については、2,265,690 千円、令和6年度と比較して 235,953 千円の減となっています。こちらについては、令和6年度の実績と見込みを踏まえた現実的な予算立てにしております。。 その他医業収益は、530,255 千円、令和6年と比較して 77,377 千円の増となっております。これは一般会計負担金、救急医療の確保等の増が要因として挙げられるところでございます。 医業外収益 負担金交付金については、352,842 千円、令和6年度と比較して 23,603 千円の増となっております。 医業外収益 他会計補助金については、209,998 千円、令和6年度と比較して 6,037 千円の減となっております。 医業外収益 長期前受金戻入益については、一般会計負担分の長期前受戻入益の減、受贈財産長期前受戻入益の減により、令和7年度は、356,874 千円、令和6年度と比較して 123,957 千円の減となっております。 その他医業外収益については、105,889 千円、令和6年度と比較して 17,275 千円の減となっております。 特別利益 長期前受金戻入益については、27,273 千円、令和6年度と比較して 24,176 千円の増。 特別利益 引当金戻入益については、1,534 千円、令和6年度と比較して 33,738 千円の減となっております。 次に、収益的支出についてご説明いたします。 医業費用の給与費については、5,383,584 千円、令和6年度と比較して 305,888 千円と大きく増となっております。これは、人事院勧告の給与費の増や医師をはじめとした職員の増員に対する増加が、要因となっております。 医療費用の材料費については 1,560,000 千円、こちらについては、令和6年の

山端会長	実績を踏まえた積算により、令和６年度と比較して、40,000 千円減としております。 医業費用の経費については、2,173,046 千円、令和６年度と比較して、89,958 千円の減、これは照明の LED 化による光熱費の減や、今年度大きな修繕案件であった別館のボイラーの修繕の減等もあり、減少しているところでございます。また、委託費につきましては、令和７年度新たな取り組みとして電子処方箋システム、SpeechER 等の ICT 関連の取り組みや、新ホームページの着手、職員研修等の取り組みを行いたいと考えております。 減価償却については、672,093 千円、令和６年度と比較して 136,708 千円の減となります。これは建物の減価償却費の減等によるものが、減少の要因となっております。 次の医療費用の研究研修費については、41,124 千円、令和６年度と比較して 8,302 千円の減となっております。 医業外費用の支払利息については、166,273 千円、令和６年度と比較して 6,475 千円の減。 医業外費用の保育所運営費については、28,792 千円、令和６年度と比較して 6,788 千円の増。 医業外費用の雑支出については、163,622 千円、こちらは、消費税用雑支出の減により、令和６年度と比較して 20,751 千円の減となっております。 次に裏面の資本的収支についてご説明いたします。 資本的収入は、821,729 千円、資本的支出については、1,218,051 千円、差し引き 396,322 千円の赤字の見込みとなっております。 主な増減理由といたしましては、まず資本的収入については、企業債 164,200 千円、令和６年度と比較して 67,100 千円の減。これは、資産購入の減に伴う借入金の減が、要因となっております。 一般会計負担金については、656,296 千円、令和６年度と比較して 14,797 千円の減。これは、企業債償還金の減に伴う繰入金の減が、要因となっております。 資本的支出については、資産購入費で 184,360 千円、令和６年度と比較して 75,988 千円の減。これは、医療器械購入費の減が、要因となっております。 企業債償還金については、1,028,974 千円、令和６年度と比較して 16,804 千円の減。これは、病院建設に係る償還金の増や医療器械購入に係る償還金の減が要因となっているところでございます。 令和７年度予算においても、令和６年度よりさらに厳しい状況になっております。それを踏まえて、当院では、経営改善する取り組みを今後も継続して行っていきたいと考えているところでございます。以上で説明を終わりにさせていただきます。 はい、ありがとうございます。ただいま説明が、ありました内容につきまして、ご質問、ご意見ございましたらご発言をお願いいたします。
------	--

古川委員	外来収益が、一般と精神科が、マイナスになっておりますけれども、聞くところによりますと、八戸は、予約すると1ヶ月、2ヶ月待ちっていう風なのが現状でございますので、十和田の場合は、患者数の減でこういうふうになったのかどうか、今ちょっとお聞きしたいと思ってまして。
越田医事課長	ご質問にお答えいたします。患者数は、直接令和5年度と令和6年度の間にいっては、実績としましては、大きな変動はないものと思っております。ただし、説明いたしました予算の資料に載せておりますところが、実際6年度の実績を見ますと、ちょっと予算で当初と計上しましたものが、実績より多く計上してしまったところがありましたので、今年度の実績を勘案しまして、7年度は、より実績に近い数を見込んで、この数字を掲載させていただきました。よって6年度、7年度と比較しますと、7年度が、減ってるように見かけ上、見えますけれども、実際の患者数ベースでいきますとさほど減はないということになってございます。
古川委員	ありがとうございます。もう1つお願いしたいと思います。研修費がですね、医療看護は、日々進歩しておりますので、より良い医療看護提供するためには、やっぱり研修が必要だと思ひまして、それが、やっぱり患者さん、地域住民に還元されるものだと思いますので、そこをちょっとお聞きしたいなと思ってました。
東業務課長	研究研修費の減につきましては、医学図書について節減できるところはないかことで、旅費についても、本当に必要なものについてですね出すということにして、我慢していただくものは、我慢していただくということで、減らしているところでございます。なお、研究旅費の減については、医療に必要な研修等については、対応したいと思っておりますので、無駄なところはないというように思ってます。以上です。
古川委員	ありがとうございます。
丹野事業管理者	加えまして。丹野です。ありがたいご指摘いただいて非常に重要なところなんです。一応、こちらとしては、一応図書費などをもう一度見直してみようと、いわゆる洋書関係とかですね、今までそういうのを充実させていたんですけども利用頻度が、少ないというようなこともあって、この辺を少し縮小するということとか、あと学会が結構、ウェブって言いますか、実際現地まで行かなくても受けれるということがありますので、その辺でも少し削減できるだろうということで、その辺を含めておりまして。 おっしゃる通り、その研修を絞ってその質が下がるっていうのだけは、避けた

	いと思ってますので、工夫してやらせていただきたいと思います。ありがとうございます。
古川委員	六ヶ所村の医療センターの方で診療看護を実施していますのでね、特に本当に看護婦さんの研修は、これからずいぶん進んでいくものだと思いますので、できれば研修については、よろしく願いしたいと思います。
山端会長	はい、その他ございますか？ はい、中尾議員。
中尾委員	収益ですね、見ましたらちょっと来年度厳しいのかなと思っておりますが、収益で多いのが、入院と外来を足すとまず 8,000,000 千円ぐらいなんです。そして支出の一番多いのは、給与で 5,300,000 千円なんです。で 8,000,000 千円引く 5,300,000 千円っていう形になると随分、給与の方が多いんですが、給与を減らすわけにはいかないんで、収入を増やさなきゃいけないっていうふうに、この表から見れるんですが、7年度に向けて、期待のできる事業とか案とか新しいものとかありましたら教えていただければと思います。
東業務課長	こちらでもいろいろと考えておりまして、まず一つは、収益の増になる見込みのところがございます。冒頭にですね事業管理者が言った通り、消化器内科が、今年は不在の時期がありまして、収益が落ち込んでたんですけども、来年度からは、もう少し体制を充実いたしますので、増収の見込みを立てさせていただいております。 あと透析とか放射線治療器、高度治療のトモセラピーについては、もう少し稼働率が、上げれるんじゃないかと、収益の増に向けて取り組んでいくところでもございます。 あと人間ドッグについて、地域で人間ドッグやってることかと比較して、料金を増やしてもいいんじゃないかということで、増収を考えているところがございます。脳ドッグについても、利用者の増を図るための策を検討しているところがございます。 その他、引き続き、増収対策とか委託費の仕様書の見直しとかですね収入と費用の面、両面ですね。経費の節減、収入等を確保を図りたいと考えております。以上です。
中尾委員	はい、ありがとうございます。今、健康診断、結構皆さん周り見ると八戸の西健診プラザに行かれる方が、多いんですよ。それで、あそこは、割と高額な人間ドッグもやってたりして、血液検査でマイナITCHンゲールとかアミノインデックス検査とか、ガンになってるのか、なってないのかっていう検査とかも高額な検査もやってるんで、人間ドッグが、お金が稼げる検査だと思うので、ちょっと力

	を入れるとかってというのはどうなんでしょうか？
越田医事課長	はい。ありがとうございます。ご指摘の通り、人間ドック、検診センターの中でも収益の柱の部分となっております。先ほど業務課長からもお話あったんですが、近隣の検診センターの料金と比較しますと、当院の料金が、人間ドックにつきましては、低いということが分かりましたので、そこにつきましては、約今年度料金の 10%ほどですけども、料金を値上げさせていただきたいと考えてございます。そこでいきますと、検診者の数が、6 年度と同様でいきますと単純に収入 50%増と見込まれておるところです。また、合わせまして、検診センター及び他の検診も含めまして、人間ドックの利用を周知する必要もあると思っておりますので、またここは広報と言いますか、十和田市中央病院でぜひ人間ドックを受けてくださいというようなことのPRも含めて、取り組みをしていきたいと考えてございます。利用の増につなげていきたいと考えてございます。
中尾委員	はい、わかりました。ありがとうございます。
山端会長	はい、その他ございますか？ 浅原委員お願いします。
浅原委員	資料 2 の収支のところので、令和 7 年度は、案ですよ。それで、マイナス 556,000 千円と出てて、それを見て、それだけの赤字があって、資料 1 の最後のところのさっき山端会長が、言っていましたけども 19.3%というのをこのままでいくと、確実に超えていくんじゃないのかなというふうに予想するんですけども、この辺は、どうなのでしょう？
東業務課長	この予算通りに積み立てていくと、19%を超える見込が、現実的にも見えてきております。こちらとしても予算として計上した、ここでは、赤字でありますけども、もっと収入を増やしたり、支出を縮減するような形にして、なんとか資金不足比率を 20%超えないように取り組んでいきたいと考えているところでございます。以上です。
浅原委員	ありがとうございます。是非そうしていただきたいと思います。
山本委員	あの先ほどもあのトモセラピーの稼働率とか、収益を上げる部分ですけども、あの上十三まるごとネットでしたでしょうか？その辺で、三沢市ですとか近隣の病院との連携で医療機器の共同使用とか、またあの薬の共同購入も先々に考えられるんだと思うんですけども、その辺の進捗状況っていうのはどうでしょうか？
東業務課長	トモセラピーは、上十三に 1 台しかない高度放射線治療器でございまして、な

山本委員 山端会長	ので、地域の方々にですね、治療をやることのできる病院として、うちは、周りの病院も含めまして、患者さんが来るように取り組みを図っているところでございます。 また、三沢には、PET-CT という放射線検査装置っていうのがあって、お互いの治療と検査をうまく組み合わせることによって、地域の医療を、特に高度医療を進めていきたいと連携法人では考えております。 あと、共同購入につきましては、薬品と診療材料の二つを検討しておりまして、今、薬品は、切り替えで2品目ですけども取り扱いのある病院さんで共同購入を実施しているところでございます。材料についても病院間で、共同購入できないかということで、現在も取り組みを進めている状況でございます。以上です。 取組の方は、進んでいるっていうことで理解してよろしいですか？はい、分かりました。ありがとうございます。 はい。その他ございますか？ それでは質疑がないようですので、次の案件に移ります。
案件	(3) 十和田市立中央病院経営強化プランの改定について
山端会長 東業務課長	事務局より説明願います。 十和田市立中央病院経営強化プランの改定についてご説明いたします。 資料3をご覧ください。こちらは、十和田市立中央病院経営強化プランの変更についての抜粋の資料になります。変更している箇所といたしましては、病床数の変更の部分になります。変更しているところは、線を引いておりますので、こちらをご覧くださいきたいと思います。 前回の審議会で、病床数の削減についてご了承いただきました。その後、議会の議決を持ちまして病床数の削減が承認されましたので、病床数を 369 床から 323 床へ、うち一般病床は 315 床から 269 床に変更するものでございます。 その隣のページの表の休床中の病床ですけども、令和7年と令和9年のところは、46 床が2つともなくなって、合計を 315 床から 269 床へ変更するものでございます。 3つ目の変更については、最後のページをご覧くださいと思います。第8章 施設・設備の最適化等についての章ですけども、表1と表2についての修正になります。表1の修正項目といたしましては、令和7年度に予定していた入室管理システム更新というところを見直し、再検討とした結果、令和7年度は実施しないことになったことから、変更するものでございます。その下の表2の頭・腹部用X線血管撮影装置の購入については、使用する医師が、来ると分かった時点で購入することとしたことから、変更となっております。以上で説明終了いたします。

山端会長	ただいま説明がありました内容につきまして、ご質問、ご意見ございましたらご発言お願いいたします。 はい、古川委員お願いします。
古川委員	第4章のところでございますけれども、当院の果たす役割の中で、急性期機能の充実、圏域内自治体病院等への支援、在宅医療の提供、この在宅医療につきましては、非常に市民の方々が利用して、良かったというふうな声をね、あちこちから聞いておりますので、より充実にした在宅医療を提供していただきたいと思えます。 それからもう1つは、地域の中核となる公立病院として、救急医療、小児医療、感染症医療、災害医療にできれば産科医療も本当に入れていただきたいんですけれども、先生方で一生懸命協力は、していると思いますけれども、出生数も減少している中で、やっぱり中核病院としての役割として、やっぱり産科医療は、ぜひ入れていただくように努力をしていただきたいと思えます。それでね、院内助産が、全国で154の病院が、導入しているそうでございますけれども、この院内助産というは、助産婦さんが中心になって分娩導入している。今後ね、中央病院としては、導入ができるのかどうか、ちょっとお聞きしたいなと思ってました。以上です。
丹野事業管理者	産科に関しましては、非常に重要な課題だと捉えております。こればかりは、全国的にもそうなんです、だんだん集約化の方向に進んでるのは、事実です。いろんな各県それぞれ、ある意味、産科をやることは、非常にマンパワーを絶対的に投入しなきゃならないということもありまして、特に産科医、そして小児科医、これが非常に充実が求められて、安全性が、最も重要だと。少子ってこともあるんですが、そういうことなので、ある意味大学との関連が非常に重要な、さらに重要になると思うので、その辺は、当院にいる婦人科の先生ともいろいろ相談しながら、大学との関連が、非常に重要だと思いますので、今後もその辺の状況を勘案して考えていきたいと思ってます。 院内助産に関しまして、ドクターがしっかりフォローしないと、なかなかあの安全性を保てないということもございますので、それが基本かなと思っております。ご指摘ありがとうございます。
山端会長	その他、中尾委員。
中尾委員	現在のベッドの稼働率っていうのわかりますでしょうか？ すいません。じゃあちょっと分かったら教えてください。実は昨日、民間の病院長にお会いしまして、その先生が、国が医療費を抑える方向に行っているんで、民間病院は、特に大変だっておっしゃってました。中央病院のベッドの稼働率高い、すごく頑張っていると話しまして、それなのに赤字っていうのは、努力

	しても限界があるんだよってという話をなさっております、仕入れの薬が、高額になってるとか、経費がかかるとか、まず料金を上げるわけには、病院は、いかなから、それで大変だということをお話ししてました。中央病院は、最近はすごくみんな笑顔で大変良いという話をされてましたんで、ちょっとそれで稼働率ってどれぐらいなのかなと思ってお聞きしたいと思いました。
渡邊事務局長	1月分の数値でもよろしかったでしょうか？1月は、一般病棟で228人、1日あたり平均入院されております。一般病床は269床ですので、84.7%、ちょうど冬場ですので、今、インフルエンザなどの感染症が発生しております、そこで今稼働率が上がってる状況でございます。この状況は、他の病院さんでも同じような状況にはあると伺っておりましたので、稼働率が、より上がっているような状況になっております。
丹野事業管理者	利用率と稼働率は、だいぶパーセントが違ってきます。実は、今の求め方だと利用率です。利用率が84.7%ですが、当院の場合は、稼働率としては、だいたい5、6%上乗となります。ですから、だいたい9割ぐらいの稼働率と考えております。
中尾委員	ありがとうございました。
山端会長	その他ございますか？
上坂委員	上坂委員
上坂委員	第8章の施設設備のところ、表1、表2の更新とか装置を新設しないっていうのは、今あるやつを8年度9年度まで十分使える状態だというふうに考えていらっしゃると思いますかね。その辺を確認したいんですが。
東業務課長	ただいまの質問にお答えいたします。令和7年度に更新する必要がない見込みが立ちましたので、経営状況がすごく良くないので、本来であれば、更新したいところではあるんですが、我慢して、病院経営の立て直しを先にさせていただきたいと、使えるものは、使いますし、まだ待てるものは、ちょっと待って、我慢して、取り組みしていきたいと考えております。以上です。
上坂委員	じゃあもうちょっと頑張ってください、あと、じゃあ9年、10年には最新の医療システムをお願いしたいと思います。
山端会長	はい、その他ございますか？
山端会長	それでは、以上、病院側からの説明は終わりますが、折角の機会でございますので、病院経営につきまして、皆さまからご質問、ご意見などございませんでし

	ようか。 中尾委員
中尾委員	この状態を見て本当に、全国的に大変だと思いますが、赤字であることの重大さを知って、まず真剣に、認識していかななくてはいけない、経営努力を一層していかななくてはいけないと思いますが、議員ですので、役所の方の立場を言いますと、基金も毎年下がっております。ですので、いつまでもお金があるわけでもないで、先々のことも考えていかなきゃ、議会としても考えていかなきゃいけないと思っておりますので、一緒に考えて、病院と共に動いていきたいと思っておりますので、これからもよろしくお願いいたします。
山端会長	その他ございますか？
東業務課長	資料の訂正をいたしたいと思しますので、お願いいたします。資料1 収益的収支の状況の2つほど修正ございます。令和6年度の決算見込額のところの不良債務。うちリース債務というところ、543,721千円、正しくは17,396千円になります。その隣の増減についても、4,261千円になります。お手数で大変申し訳ないですが、修正をお願いしたいと思います。 こちらは、うち未払金の数字がちょっとそのまま載っていた状況がわかりましたので、修正させていただいているところでございました。
山端会長	その他質疑。ご意見ありますか？ 戸来委員お願いします。
戸来委員	今の訂正でその下も変わってきますかね？その下の不良債務比率も変わるでしょうし、そうすると、もしかして一番下も変わるのかなと思ったりするんですけど。
東業務課長	こちらについては、数字は変わらない（内数なので変わらない）。そこだけ違うということで、お願いいたします。
山端会長	はい。その他ありますか？ それでは、議論がついたようなので、事務局にお返しいたします。
渡邊事務局長	事務局の渡邊と申しますが、1点だけすいません。ちょっとご提案というか、お話をさせていただいてもよろしいでしょうか？ 今現在、当病院の個室利用料に関しては、市内と市外を分けていない状況にございます。三沢とかであれば、市内の市外を分けて、市外の方には1.25倍とか、八戸市民病院だと1.15倍とかちょっと差をつけているんですけども、そうい

	う事も、収支の改善につながるのかなと事務局サイドでは思っておりまして、その点につきまして、審議会委員の皆様は、どのようにお考えになるかということをおちょっと、ご確認させていただければ、ありがたいんですけどもいかがでしょうか。
山端会長	市内、市外で簡単な割合でいいのでどのぐらいの。
渡邊事務局長	令和5年度の数字なんですけれども、個室を利用された方が17,218人いらっしゃって、うち十和田市民以外の方が6,317人いらっしゃいました。仮にざっくりとした計算なんですけども、1人1,100円、だいたい1.2倍なんですけど、1.2倍ぐらいちょっと多めにすると、年間で7,000千円ぐらいの収益が、アップするということになるんです。 従前、うちの病院は、差をつけてないところなんですけれども、経営審議会の委員の方にとってはどんな感じなのかなというところ。ちなみにむつ総合病院の方でも広域事務組合でやってますけども、そこも地域内の人と地域外の人では、料金の差をつけている。ちなみに青森市市民病院の方は、料金の格差をつけていないというような状況を踏まえて、条例事項になりますので、議会の方に諮っていただかなければならないと思ってます。ぜひご意見をいただければありがたいです。
中尾委員	いいと思います。賛成 病院自体が良ければ、ちょっと高くても。
渡邊事務局長	参考にさせていただきます。